

# 「酒蔵ツーリズム推進協議会」の役割について

---

平成25年3月26日

# 酒蔵ツーリズム®の推進に関する政府の方針

「酒蔵ツーリズム」は佐賀県鹿島市の登録商標です。

## ○「観光立国推進基本計画」（2012年3月30日 閣議決定）

### 3-5 観光旅行促進のための環境の整備

#### （五）新たな観光旅行の分野開拓

#### ② 各ニューツーリズムの推進

キ ファッション・食・映画・アニメ・山林・花等を観光資源としたニューツーリズムの推進

食については、各地の気候風土に根差した郷土料理を始め、B級グルメや地酒・地ビール等の飲料も観光コンテンツとして注目を集めている。引き続き、各地の食の魅力を発信するイベントやブランド化等に対する取組みを支援する。

## ○「日本経済再生に向けた緊急経済対策」（2013年1月11日 閣議決定）

### 2. 地域の特色を生かした地域活性化

#### （1）地域の魅力の発信、観光の振興

地域それぞれの魅力を日本全国、世界に発信する。地域の特色ある農林水産物の魅力の発信や輸出相手国の輸入手続きの円滑化のための働きかけなど幅広い輸出拡大の取組等を行う。また、官民協働で地域の魅力を開発・発信し、観光地の再建を図る取組等を推進する。さらに、地域の魅力の中核となる文化施設等の機能強化や国立公園の安全対策等を行うとともに訪日外国人旅行者の誘致を進めるなど観光の振興を図る。

▪  
▪ (中略)  
▪

日本産酒類の総合的な輸出環境整備

[参考] 「國酒等の輸出促進プログラム」（2012年9月4日）（抜粋）

酒造関係業界、関連業界、地方自治体、国からなる酒蔵ツーリズム推進のための協議会を設けて、現状と課題、外国人の受け入れ体制を含む環境整備、振興方策等について検討することが望まれる。

# 酒蔵ツーリズム推進に向けて

## ○酒蔵ツーリズム推進のための官民全国協議会の設置・モデルケースの構築

- ・まだ緒についたばかりで、現状分析と関係者の考え方の共有、連携のあり方を検討。
- ・酒造関係業界、関連業界、地方自治体、国からなる酒蔵ツーリズム推進のための官民協議会を設置。  
→現状と課題、外国人の受け入れ体制を含む環境整備、振興方策等について検討（総務省「地域人材ネット」等の活用）。
- ・インバウンドの視点から見て潜在性が大きく、意欲のある地域をモデルとして、受入課題や有望な海外プロモーション先の検討。  
→取組意欲のある地域に、ノウハウの拡大、浸透を図る。

## ○地域ぐるみでの環境整備など酒蔵ツーリズムの促進

- ・地域においても、酒造業者と自治体、観光協会が連携して、酒蔵ツーリズム推進のための協議会等の設置。  
→地域に存する他の観光資源とストーリー性をもって連携を進め、自らの地域の魅力を広く発信していくことが重要。  
(例) 鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会、埼玉地酒応援団

## ○海外からの酒蔵ツーリズム客の誘致促進

- ・酒蔵ツーリズムの存在と具体的内容を内外に様々な機会を捉えて発信。  
酒蔵関係のルートを紹介するガイドブックの作成  
ホームページの多言語化発信  
旅行会社において、酒蔵をテーマにした旅行商品の開発  
VJ事業（招聘事業）に國酒等を広報する機会の盛り込み 等



小澤酒造株式会社  
酒蔵見学



関谷醸造株式会社  
酒造り体験コース

## <趣旨>

酒蔵ツーリズム協議会は、日本産酒類（日本酒、焼酎、泡盛及び日本産のワイン・ビール等）を盛り立てるとともに、それを観光資源として活用し、外国人観光客への訴求も見据え、我が国及び地域の観光交流の魅力の増進と地域活性化に繋げることを目的に、

- ① 酒蔵ツーリズムのあり方を考察するとともに、先進的な取り組みの情報の収集・発信、本件に関わる様々な関係者の連携強化
- ② 地域における取り組みの促進

を図る。

## ＜酒蔵ツーリズムの基本理念＞

- ◇観光とは、国や地域の光を観ること（易経より引用）。「住んでよし、訪れてよし」を目指し、地域のDNAを反映させたツーリズムを構築していくことが重要。
- ◇酒蔵ツーリズムにおいては、歴史文化、宗教、地域の水脈・土壌、米作り・発酵文化などを再認識し、日本人及び地域が誇るドラマとして語る事が重要。
- ◇持続可能なツーリズムを目指し、環境、コミュニティ、歴史的建造物の保全を図る。
- ◆上記を踏まえ、具体的な取り組みにあたっては、地域一体の取り組み、異業種連携、通年型の観光、持続性の確保などに留意しつつ、地域活性化を目指す。

## <主な役割・取り組み>

### ①酒造業界と観光業界その他関係者とのネットワーク化。

- ・酒造業界と観光等業界、行政の交流、SNS（ソーシャルネットワーク）の活用。  
（イノベーションや経営革新を引き起こすような知と実践のプラットフォーム化を目指す。）

### ②地域協議会等の組織化と相互の連携強化、地域モデル及びビジネスモデル事例の収集・分析・情報提供。

- ・地域ぐるみの協議会の立ち上げを促進し、通年型の酒蔵観光を目指す。  
（蔵元のみならず、観光団体や商工団体が主体になり、行政が支援する体制づくりが重要。）
- ・下記のような事例を収集して、情報提供の仕組み作り。

例：地域協議会（佐賀県「鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会」、  
兵庫県「はりま酒文化ツーリズム協議会」）

ワインツーリズムやまなし

永年に渡る取り組み（兵庫県灘、京都府伏見等）

県単位での応援（埼玉地酒応援団等）

ブロック単位での各省庁と関係団体の連絡会設置（近畿地方等）



### ③お酒や酒蔵をまちづくり、まちづかいに活用することによる地域の活性化。モデル的な事例を収集・提供。



例：富山市岩瀬

（株）榊田酒造店を中心に、かつて北前船の交易で栄えた廻船問屋の町屋を再生し、建築家や彫刻家を招聘。

### ④農業、食文化、伝統工芸との連携の促進

- ・ お酒や郷土料理を地域の伝統工芸の食器により提供。
- ・ 米作り体験、酒造り体験。

酒蔵がレストランや居酒屋を併設し、六次産業化するとともに、訪問客が地域の外食店でも醸造した酒を楽しむなど地域内の店舗との連携を深めていくことも重要。

外国人観光客誘致に関しても世界的な日本食ブームを活かす方策も重要。



越前漆器

## ⑤ 旅行商品の開発・仕組み作りの事例の収集・提供

### ・ 観光業界の協力を得ながら、具体的事例の拡大を図る。

(ガイド等の人材育成も重要。)

例1：「パ酒ポート」 北海道広域道産酒協議会（事務局・JTB北海道）

『パ酒ポート』というパスポートをもじった北海道産酒情報スタンプラリー帳を製作し、北海道の日本酒の蔵、ワインの醸造所、ビールの工場等を巡る仕掛けをし、消費者に北海道産のお酒について理解を深め、より一層愛していただきたい、という企画。



例2：「聖地巡盃」 企画：聖地巡盃推進委員会、旅行主催：(株)ティー・ゲート  
全国各地に点在する「神社」と「日本酒（蔵元）」を活用して着地型の観光商品を新たに企画・販売。「神社」と「日本酒（蔵元）」の密接な物語を綴り、地域ならではの魅力を広く国内外に発信。



### ・ 外国人向けツアーの普及

例：酒蔵に海外の日本酒ファンを呼び込むツアー-Sake Brewery Toursをプロデュース（2010年～）

→ 2012年度は、道トラベルや日本旅行とコラボによる商品化

2013. 3. 4 ~ 3. 8 (4泊5日) 関西3酒造巡りツアー

2013. 3. 10 ~ 3. 16 (6泊7日) 信越3酒造巡りツアー

※日本酒ジャーナリストジョン・ゴントナー氏による説明付き。

### ・ 在日外国人向けの日帰り・一泊ツアーの造成等について働きかけ。



## ⑥協力企業等からの「連携プロジェクト」提案の募集

- ・企業等から酒蔵ツーリズムの振興につながるプロジェクトの提案を受け、広く周知。

## ⑦情報発信

- ・酒蔵ツーリズムを応援するホームページ、フェイスブック等の立ち上げにより、本協議会の活動状況、先進的な取り組み事例、各協議会メンバーの取り組み状況、各種イベント情報など、酒蔵ツーリズムの振興に資する情報を発信するとともに、こうした情報発信を通じてファンの獲得・交流を図る。